

サクラソウとは？

Primula sieboldii E. Morren

サクラソウ科サクラソウ属の一種で準絶滅危惧種です。

この属には、他に14種が日本に分布します。サクラソウ以外にもカッコソウ、クリンソウ、ユキワリソウ、イワザクラなどが絶滅危惧植物に指定されています。



ミョウギイワザクラ
絶滅危惧IA類

- 自分の花粉では受粉せず、自分とは異なるタイプの花の花粉を昆虫に運んでもらうことで受粉・受精します。
(異型花柱性)
- 種子だけではなく、地下茎でも増えます。
- 何年も生き続ける多年生植物です。



北海道から九州、アジア北東部(韓国やシベリアなど)に分布

日本では、低地から山地まで広く分布している。
分布の特徴から火山との強い結びつきが考えられる。

北海道

春にお日様の当たる
湿ったところが好き
だよ！

大分県



熊本県



野焼きにより管理。阿蘇の
麓に広がる草原に春の彩り
を加える。



岩手県



埼玉県・田島ヶ原



特別天然記念物に指定。ノウルシ
(準絶滅危惧種) との色のコラボ
レーションもきれい。

長野県



桜草栽培の歴史(1)

桜草栽培は室町中期の文明年間(1469-1487)から始まったとされています。文明年間から昭和まで桜草は愛でられてきました。その栽培や品種育成の歴史を「桜草栽培の歴史(2014)*」を参考にし、大まかに5期に分けて紹介します。 *竹岡泰通(2014)桜草栽培の歴史 創英社/三省堂書店

第1期:室町時代中期～後期、文明年間～元亀年間(1469-1572)
野生由来の個体栽培のはじまり。京都を中心とした宮廷貴族など、ごく一部の^{上流階級}が栽培していました。

●最古の桜草栽培の記録

大乗院寺社雑事記(尋尊大僧正の日記)からの抜粋。
文明10年(1478)3月日記末尾「庭前草花」に記載。

『二月 花桜 信乃桜(しなのざくら)
岩桜(いわざくら) 岩柳(いわやなぎ) 庭桜 **桜草**』



現在の大乗院
(日本ナショナルトラストHPより)

●天皇家への献上の記録

言国卿記(ときくにきょうき)
室町時代の公家、山科言国の記した日記。
記述は、文明6年(1474年)から文亀2年(1502年)までの30年近くに及ぶ。

『タ方シタ、メニ退出畢、(中略) 晩影番帰参、
桜草御用之由間、予庭ノ三本持参、
小御所御座ノ間直ニ持参、即ウヘサセラレ畢』

言国卿記 現代訳

夕刻、禁裏の当番に帰参した。
後土御門天皇が桜草を所望と伺い、自邸の庭の三本を
直ちに小御所御座の間に持参。
天皇は直ちに庭に植えさせた。



この時代の記録に残る桜草は、全て野生のものを採集して庭で育てていたもので、園芸品種ではありません。

桜草栽培の歴史(2)

第2期:室町時代後期～江戸前期、天正年間～正徳年間(1573-1715)

室町時代の公家の文化が裾野を拡げて行く時代。公家や権力者に仕える芸能者が文化を作り、栽培者は、公家、武家、僧侶などのほか上層町衆にも拡大しました。

華道、茶道、俳諧、障壁画にもとりあげられるようになってたり、茶の湯も堺の商人によって完成する事になります。ここで桜草が茶花として使われ、上方(京都・大坂・奈良)で次第に桜草が知られるようになります。

●茶花として取り上げられた記録

「天王寺屋会記」天正十二年(1584)

三月四日朝 因幡善浄坊休夢

床ニ細口 桜草 生而圓盆

風炉 高キウハ口の釜 小板 芋頭

手水之間ニ置

床ニ船子絵 手水之間ニかけ

花ヲイケ申候

鈴鹿冬三著『さくらそう』(保育社)

茶会記は、茶室に道具を取合せ、主人が茶室で茶や料理を振舞う茶事の記録であり、主人と客の手元に残される。茶会記の歴史は天文年間(1532-54)にはじまり、堺の津田家の『天王寺屋会記』、奈良の松屋源三郎による『松屋会記』など「四大茶会記」とよばれる利休時代の膨大な茶会記には、茶会ごとの単なる道具の列記にとどまらず、生け花など鑑賞の実録も残されている。茶会記は茶人の歴史にとどまらず、美術史や園芸史の上でも大きい価値を持つ。

(参照 表千家HP)



●障壁画など美術品に残る桜草の記録



『江戸図屏風』(国立歴史民俗博物館蔵)

3代将軍家光の事跡を描いた屏風の一部に江戸城中の御花畑があり、椿・撫子・菊・紫陽花・透し百合、桜草が見える。



尾形光琳の「四季草花図小屏風」

1716年以前

描かれている桜草は全て野生種。

(浪華さくらそう会誌31号より転載)

戦国時代の終焉によって、上方の桜草が、高度な栽培技術とともに、徳川将軍や諸大名を中心に江戸へもたらされ、桜草栽培が江戸で始まりました。

桜草栽培の歴史(3)

第3期:江戸中期、享保年間～文化年間(1716-1817)

江戸の地で武士層によって品種改良が始まった第I期です。

●最も古い自然集団の記録

柳沢信鴻「宴遊日記」からの抜粋

『土堤の下は野新田に続きたる広野、
桜草所々に開き、』

(安永10年;1781年3月17日)

(日本庶民文化資料集成13巻)



荒川の河川敷 (撮影:田島ヶ原)

野新田(やしんでん)…現在の東京都足立区新田で近傍、
尾久の原の近く。

●当時の沢山の品種があったことを示す園芸書



聚芳図説

安永5年;1776年以前
花卉の色彩と形の図示

- しほりさらさ(花卉全体に細めの縦斑紋りが数本)
- そこ紅咲き(底紅)
- なでしこ咲(弁先が撫子状に細い切れこみが入る)
- 須磨咲(弁先や弁の左右に太い紅斑)
- 横波入(弁の中央に横波状の斑線が入る)
- 透かし咲き(弁先に細めの縦斑1~3本入る)

(浪華さくらそう会43号)

当時の南京小桜



『地錦抄附録』
四世伊藤伊兵衛
1733年

現在の南京小桜



最古の品種? 南京小桜

地錦抄附録に記載されている南京小桜は、現存品種とは異なる。
地錦抄附録の説明によれば、花卉が底白でへりは紫、平咲き。
それに対して、現存品種は花卉は紅色で爪白、梅咲き。
現存の南京小桜は初代が絶えた後に文政から天保年間に作出された
可能性がある(竹岡、1999)、とされている。

下谷、小日向などで桜草同好会の「連」が組織され、それぞれ品評会が行われました。これが園芸品種の多様化に繋がったと考えられます。

桜草栽培の歴史(4)

第4期：江戸後期、文政年間～(1818-1868)

人為実生(人の手による改良)による変異の拡大期であり、品種改良の第Ⅱ期といえます。

この時代に野生集団の個体から形態が大きく離れた園芸品種が完成しました。

染井の植木屋 伊藤重兵衛の果たした役割は大きいとされています。

第4期に出版された園芸書リスト

江戸後期の桜草文献	掲載品種数	年代
桜草作傳法	63	1830
桜草名寄控(前半)	211	1860
桜草見立相撲	430	1861
桜草比叟	122	1878・1888
桜草名寄控(後半)	75	1888頃
桜草銘鑑	211	1888
桜草銘鑑補遺	68	1889
桜草銘鑑	311	1907

●『桜草作傳法』(1830年)

それまでに生まれた代表的な品種が載せられていると考えられる。しかし、「蛇目傘」「楊柳笛」「銀世界」「臥竜梅」「駅路の鈴」のように平咲、梅咲が中心で、花形・色合とも変化に乏しくなっている。



じゃめがさ
蛇の目傘



がりょうばい
臥竜梅



桜草作傳法 浪華さくらそう会HPより

●サクラソウ名寄控(品種の名簿)(1888年頃)

萬延元申年(1860)閏三月吉日

染植重(染井の植木屋・二代目伊藤重兵衛のこと)著

「紫かぶり」「一天四海」「唐縮緬」「伊達男」「秋風楽」「玉光梅」「糸の綾」「東鑑」「錦鶏鳥」「楊貴妃」「江天明鶴」「白鷺(3倍体)」など、今日でも銘花と称される品種がたくさんある。



ぎょくこうばい
玉光梅



しゅうふうらく
秋風楽



いってん しかい
一天四海



むらさきかがり
紫鑑



あずまかみ
東鏡

多数の園芸書が出され、すでに400品種を超える品種が育成されていることが分かります。

桜草栽培の歴史(5)

第4期：江戸後期、文政年間～(1818-1868)

庶民も桜草を楽しむ時代になります。

楽しみ方 其の壱 野生の桜草を見て楽しむ

●桜草花見の記録



荒川区の桜草の会によるカラー版
摺師 松崎

江戸名所花暦 1827年
岡山鳥 著 長谷川雪旦 画



2014年
さくらそう展ポスター



桃色の桜草と白魚の紅白お土産(花百花より)

桜草の赤きに白魚を
添へ紅白の土産
「いえづと」なりと、
遊客いと興じて携へか

楽しみ方 其の弐 紋となった桜草

●大衆文化のなかの桜草

桜草が庶民にも広く知られるようになる。

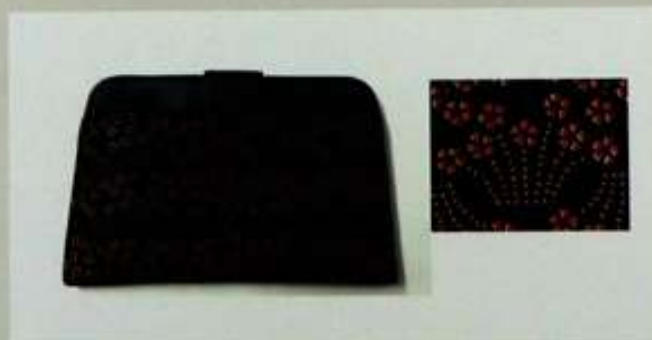
浄瑠璃の一種である富本節で庶民に人気があった二代目富本豊前に桜草紋(7本桜草)が松江藩、松平治郷より贈られたのもこの頃である。 ※この紋は現代でも甲州印伝の模様として使われている。



浪華さくらそう会42号



浪華さくらそう会43号



甲州印伝の桜草紋(7本桜草)が入った財布

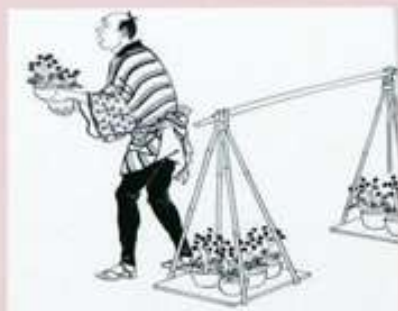
桜草栽培の歴史(6)

第4期:江戸後期、文政年間～(1818-1868)

楽しみ方 其の参 園芸品種を見て楽しむ

●江戸の桜草売りの記録

たくさん咲いている桜草を掘り取って鉢に植え、それを一鉢四文で江戸市中に振り売っていたとされる。だんごが1串四文なのでお手頃価格であった。



1855年刊
狂歌「四季人物」
歌川広重 画
(三谷一馬氏が模写)



1854年刊
草双紙「柳の幕魁草紙」
二代 歌川国貞 画
(三谷一馬氏が模写)



だんごより花!

誰が花か格子に
ちらり桜草
戸田の草掘りて
四文が朝さくら

●桜草の楽しみ方いろいろ

小屋組花壇(さくらそう花壇)

桜草作傳法の記述から、この展示様式は一般に江戸時代に始まると信じられているが、山原氏によると明治中頃にこの形に落ち着いたようである。桜草作傳法には、花の特徴をもとに花壇での鉢の置き方を示している。



再現した桜草花壇を屋外に展示していますのでご覧ください!



浪華さくらそう会25号

桜草花壇を
しています

嬉遊笑覧(文政13年)にでてくる楽しみ方



水を張った盆に
桜草を浮かべる



漆塗りの重箱に寒天を
流し込み、桜草を仕立
てる
(花百科)

桜草栽培の歴史(7)

第5期:明治～

明治維新の混乱により、桜草栽培は一時衰退しましたが、大正に向かい再興されました。

●明治に残る桜草銘鑑



桜草界は明治維新により栽培者の多くを失い、衰退してきた。そんな中、桜草は染植重などの植木屋で維持保存された。染植重・常春園では「桜草銘鑑」も出している。



宇治朝顔園の桜草写生図 上林松寿
東京常春園の伊藤重兵衛氏銘鑑と多くが一致常春園から仕入れて関西方面に販売していたと考えられる。(浪速さくらそう会17号)

●桜草の愛好者団体の発足による一般市民への普及

大正7年 東京 日本桜草会 発足

昭和11年 大阪 浪華さくらそう会 発足

「連」が衰退して初めて愛好者団体が結成され啓蒙普及活動が進められた。

第2次世界大戦へ突入すると、栽培花どころではなくなってしまった。

しかし、戦後の混乱の中で桜草は愛好家の手で守られてきた。

小石川植物園では3分の2が生き残り、京都の鈴鹿家では全部が護り通された。

これらに各人が伝えたものを加えて戦後の桜草栽培が始まった。

昭和27年 東京 さくらそう会 復活

昭和31年 大阪 浪華さくらそう会 再興

以降、各地でさくらそう展が開催され、桜草が皆に広まった。 桜草栽培史(世界のプリムラ 山原氏)



八重咲き

戦後の桜草は八重咲きなどの新しい品種が作られた。文化に根付き切手に描かれるなどしている。



第22回国民体育大会
1967.10.22

浪華さくらそう会会誌より

サクラソウ園芸品種の由来推定(1)

園芸品種は野生集団中の個体から品種改良されたと言われています。
どこの地域の野生集団をもとに園芸品種は作り出されたのでしょうか？

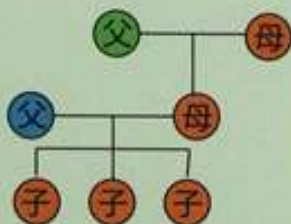
●葉緑体DNAの情報から由来推定

葉緑体DNAとは？

母親のDNAのみが子供に伝わり、父親のDNAは伝わらない。(母系遺伝)



1つの細胞には、葉緑体DNAと核DNAが存在 子は母と同じ葉緑体DNA型



母親のもつ葉緑体が遺伝するため、母親の系譜を追うことができ、先祖が分かる！

葉緑体のタイプとは？

葉緑体ハプロタイプ(塩基配列のタイプ)の見方

例：

タイプ1 ATGCTGG

タイプ2 ATGCTCC

DNA配列が違うと、別のタイプになる。

サクラソウ127園芸品種から 見つかった10個の葉緑体DNAタイプ

野生種でも見つかったタイプ

E	10
G	8
H	22
I	1
P	9
α	3
A	1
β	11
γ	61
δ	1

127品種中53品種

主に荒川流域に分布

127品種中73品種

野生集団からは見出されていない。
系統的に近いタイプは荒川流域を含む本州北部に広く分布。
これらは野生集団の中で絶滅してしまった可能性がある。



サクラソウ園芸品種の多くは、荒川流域を主とする関東周辺の野生集団から作り出されたものと推定されました。

サクラソウ園芸品種の由来推定(2)

● 核DNAの違いに基づく園芸品種と野生集団の遺伝的関係



核DNAとは?

母親のDNAと父親のDNAが半分ずつ子供に伝わる。



AとBは似ているがAとCは似ていない!

核DNAを調べると集団間の類縁関係がわかる。
集団がどのくらい似ているのかわかる!

園芸品種は荒川流域の野生集団と似ています。

核DNAも園芸品種が荒川流域起源であることを示しました。

文化を生み出す源として野生集団の保全と園芸品種の継承が望まれます!

多様な変異をもつ品種を生み出した園芸文化が発展したのも、身近にサクラソウの自生地があったから

サクラソウ自生地の現状は…

野生集団は日本全国で絶滅の危機。
特に、都心に近い荒川流域は衰退が著しい。

原因は、自生地の開発、過剰採集、野焼きが行われなくなったこと、よしや茅葺屋根が無くなり材料の葦(よし、あし)がそのまま放置されたこと。



荒川流域の野生集団は今…

浦和・田島ヶ原
大正9年に天然記念物、昭和27年に特別天然記念物に指定。現存個体数は多いものの、花粉媒介昆虫の消失のため有性生殖は不調に陥っており、将来的な遺伝的多様性の低下が指摘されている。
(Washitani et al. 1991, 1994, 1996)

東京都内の自生地
昭和初期に野生絶滅

尾久の原
江戸時代には既に乱獲のため衰退
(1827年刊 江戸名所花暦)

作出年代とハプロタイプ(葉緑体DNA型)の多様性

数字はそのハプロタイプを示す品種数を表す

ハプロタイプ	江戸		明治・大正	昭和	不明	計
	前/中期	後期				
A	0	1	0	0	0	1
E	4	1	2	3	0	10
G	0	4	3	1	0	8
H	1	11	4	4	2	22
I	0	1	0	0	0	1
P	2	2	2	2	1	9
a	1	1	1	0	0	3
β	0	3	2	5	1	11
γ	2	24	20	12	3	61
δ	0	1	0	0	0	1
計	10	49	34	27	7	127

サクラソウ園芸が最も隆盛を
きわめた江戸後期には、全ての
葉緑体タイプが出そろっている。
→江戸時代に作られた園芸品種
は野生サクラソウの遺伝的多様
性を現代に伝えるジーンバンク
(遺伝子銀行)

サクラソウ園芸品種の成立過程(1)

栽培化で花卉の形はどのように変化したのでしょうか？

野生個体



園芸品種

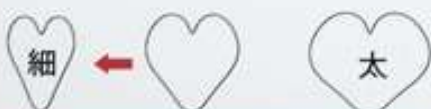
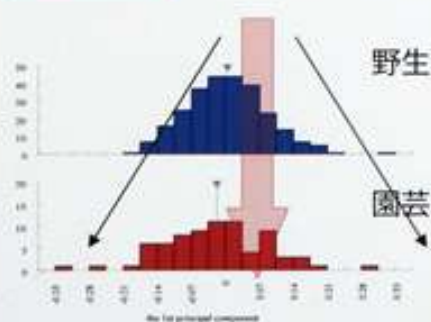


形や色といった個々の特徴に分けてみましょう。

上段 (青)：野生集団

下段 (赤)：園芸品種群

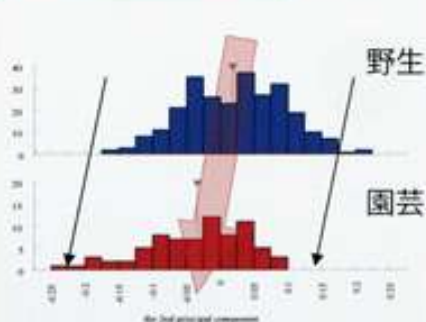
花卉の幅



細い花卉をもつ品種が好まれた



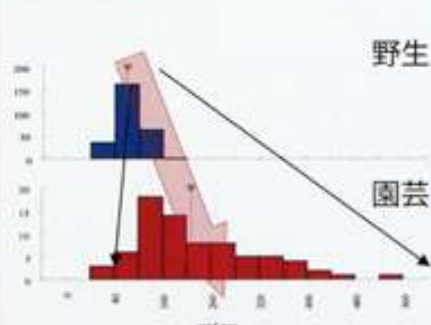
花卉の切れ込み



切れ込みが浅い花卉の品種が好まれた



花卉の大きさ



大きな花卉の品種が好まれた



サクラソウ園芸品種の成立過程(2)

時代とともに花の形はどう変化したのでしょうか？
いつ、どのような方向性だったのでしょうか？

江戸中期 園芸品種の登場

初期の園芸品種は野生集団の個体とは異なる形。花の丸さや立体感が野生と特に異なる。



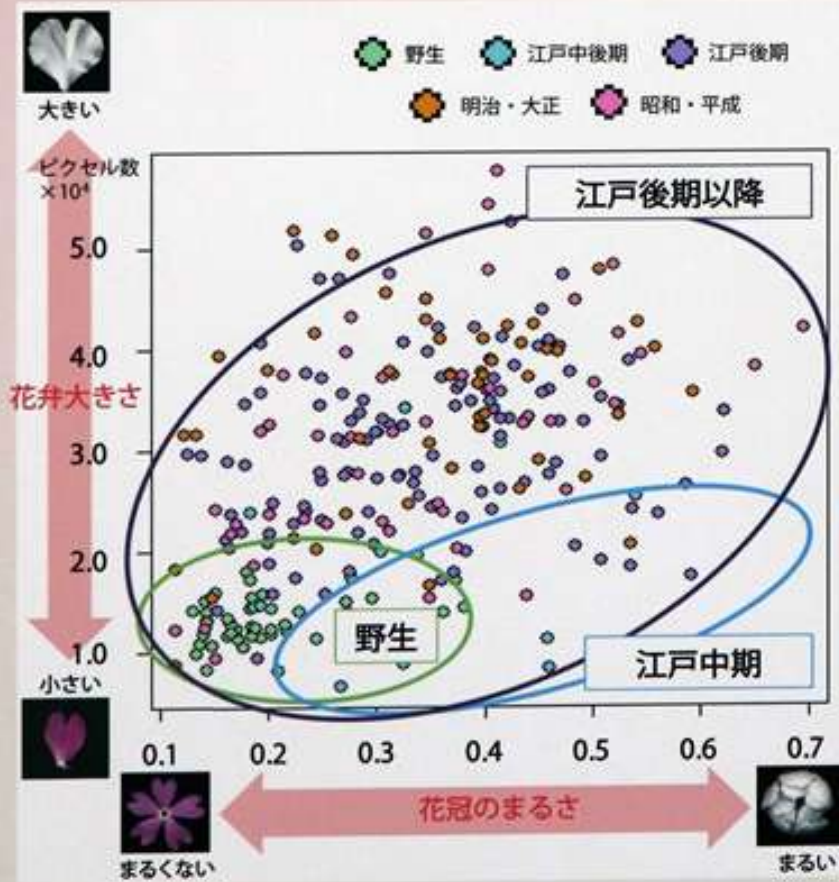
江戸後期 爆発的に多様化

武士の間で桜草ブームが巻き起こり多数の品種が作出された。特に花が大型化。



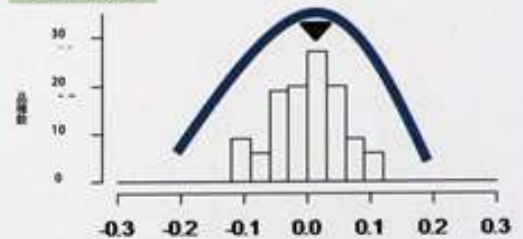
明治以降 緩やかに多様化

明治維新の動乱で桜草栽培は衰退した。緩やかに形は多様化していった。

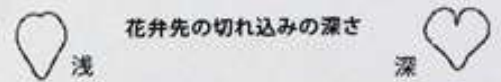
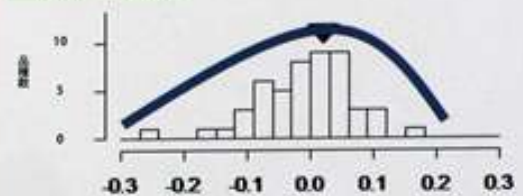


→江戸後期以降の品種は、野生種に比べてグラフ全体に広がっている。「花冠のまるさ」「花弁の大きさ」ともに、爆発的に多様化したことが分かる。

江戸後期



昭和・平成



→江戸後期に比べて昭和・平成には花弁先の切れ込みがより浅いものや、逆に、より深いものが見られるようになった。いろいろな形の品種が出てきた証拠である。

花の形は、ある決まった方向ではなく、時代の要請に応じて、様々な方向に多様化しました。

サクラソウ園芸品種の成立過程(3)

栽培化で花の色はどのように変化したのでしょうか？

花の色を決めるもの

- ① 花弁に含まれる色素の種類 ② 色素の量

サクラソウの花は主に**5種類**の色素を含んでいます。

アントシアニン2種類(紫)、フラボノール2種類(白)、有機酸1種類(白)です。アントシアニンが含まれると有色花になり、含まれないと白色の花になります。

アントシアニン

花の色のもと。構造が違う物質がたくさんあり、その総称をアントシアニンと言う。

フラボノールと有機酸

花の色の下地で白や薄い色。こちらも構造の違う物質がたくさんあり、その総称である。



有色花

アントシアニン
多>少

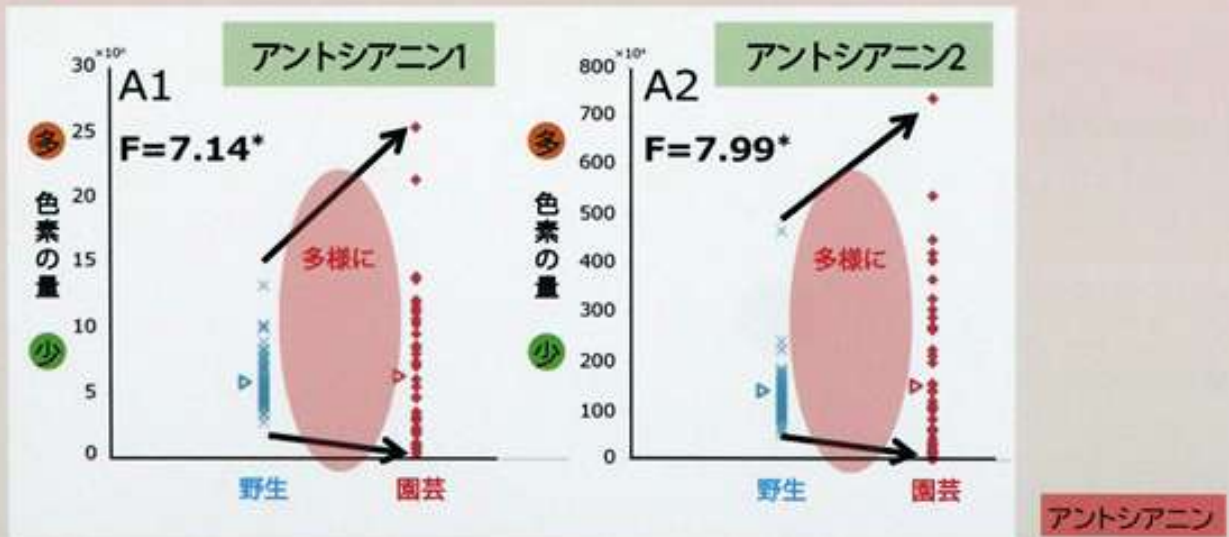


白色花

アントシアニン
含まない



- 野生集団と園芸品種の有色花の色素を調べると・・・



野生集団にくらべ、園芸品種では花に含まれるアントシアニンの量が多いものから少ないものまであり、多様になっている。

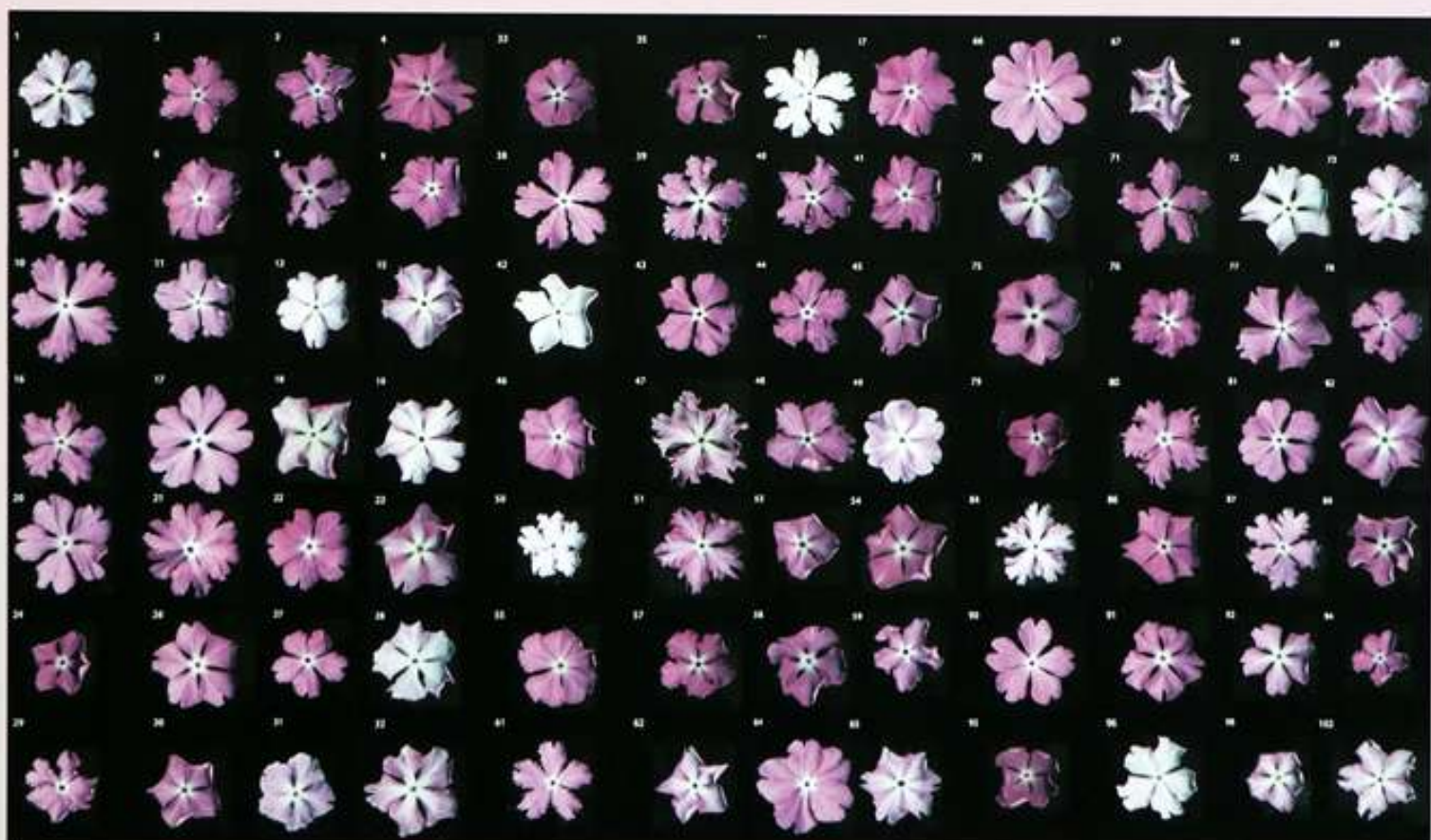


サクラソウ園芸品種の花の色は、人の目による濃淡(≡アントシアニン量)の選抜により多様化しました。

サクラソウ園芸品種の成立過程(4)

● 多様な品種が誕生した理由

筑波大学では江戸時代にどうしてこれほど多様な品種が生まれたかを探ろうと、品種同士での交配をしてその子供たちを育ててきました。その結果、‘入野の都’と‘喰裂紙’という一つの組合せから花色、花弁の幅や形・模様が多様な変異が現れることがわかりました。



江戸時代に、偶然に結実した種子の実生からさらに美しい花が選抜されて、現在にも残る多くの品種が生み出されたものと考えられます。